記者発表資料

令和2年10月21日
新庄河川事務所
鶴　　岡　　市

大規模土砂災害を想定した危機管理演習を実施

～過去の災害を教訓として、より迅速な災害対応を目指して～

大規模な土砂災害に備え関係機関合同の危機管理演習を、10 月 22 日(木)に鶴岡市出羽庄内国際村において実施します。

演習は赤川流域(鶴岡市朝日地区)において大規模土砂災害(河道閉塞等)が発生したことを想定し、学習型訓練※1により実施します。

令和2年7月の豪雨災害、令和元年8月九州北部での豪雨災害など、近年、全国的に局地的な豪雨がもたらす土砂災害が頻発しています。

また、当事務所管内でも、平成 24 年4月に大蔵村肘折地区において地すべり性の土砂災害や平成 30 年8月にも豪雨災害が発生しています。

このような状況を踏まえ、今年度は鶴岡市において関係機関による「赤川流域大規模土砂災害危機管理演習」を実施します。

訓練では、参加者全員が災害対応行動を確認するとともに、関係機関が一堂に会することにより「顔の見える関係」を構築し、迅速な災害対応が出来るよう実施するものです。

記

1. 演習日時　　令和 2 年 10 月 22 日(木)午前 10 時～午後 3 時
2. 演習会場　　鶴岡市出羽庄内国際村　国際村ホール （山形県鶴岡市伊勢原町 8-32）
3. 参加機関　　山形地方気象台、山形県、鶴岡市、新庄河川事務所
4. 参 加 者　　約50 人
5. 訓練項目　　〇学習型訓練 ： 降雨に伴う防災体制の構築
　　河道閉塞・地すべり・がけ崩れへの対応

※1「学習型訓練」については、【別紙－1】をご参照下さい。

＜発表記者先：鶴岡記者会、新庄新聞放送記者会＞

【問い合わせ先】
＜国土交通省　東北地方整備局　新庄河川事務所＞
TEL：0233－22－0251(代表)
砂防副所長　木村（きむら）　晃（あきら）(内線 205)
調査課長　酒井（さかい）　公（こう）(内線 351)

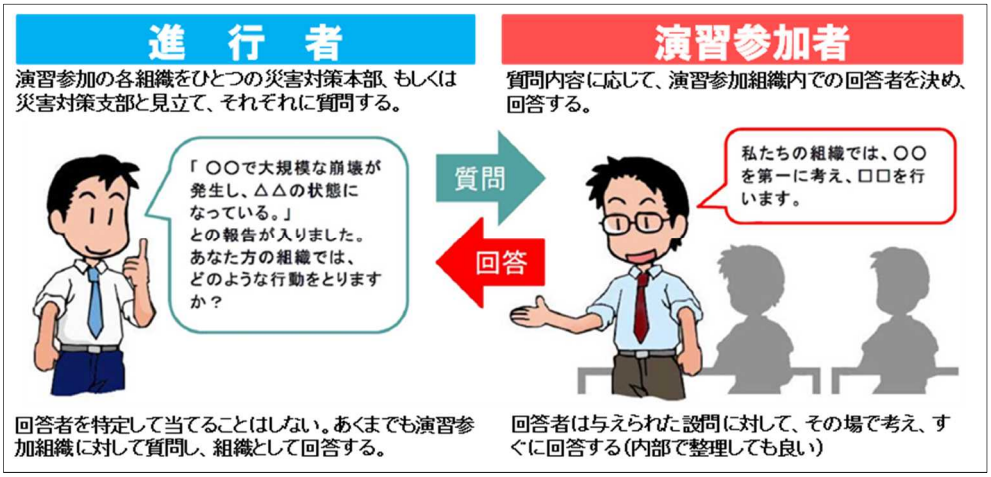
■スケジュール

【別紙－１】

実施事項	時間
開会、演習の進め方の確認	10：00～10：15
合同防災演習	10：15～14：30
ステージ１【豪雨に対する警戒活動】	
ステージ２【土砂災害への対応】 ■同時多発的土砂災害：情報収集～現地調査・避難勧告等の判断～避難 ■河道閉塞・地すべり：情報収集～事前調査～緊急調査～土砂災害緊急情報～避難	
休憩・昼食	
ステージ３【連絡調整会議と合同記者会見】	
ステージ４【河道閉塞や地すべりに対する応急対策～避難解除】	
意見交換、全体講評、閉会	14：30～15：00

■訓練方法（※1学習型訓練）

「進行者」と「訓練参加者」にわかれ、想定した災害シナリオに則して状況付与を行った上で、「進行者」は「訓練参加機関」に、その対応について様々な「質問」をし、「訓練参加機関」は「回答」する形式で進行します。





会場全景



回答状況

訓練実施事例（西川町　令和元年 10 月）

寒河江川流域「大規模土砂災害危機管理演習」

大規模土砂災害危機管理演習Ｑ＆Ａ

No. 1

Ｑ１．平成 22 年度からこれまでの経緯は。

Ａ１．新庄河川事務所の砂防 6 流域（立谷沢川、角川、銅山川、鮭川、寒河江川、赤川）について実施している。

平成 22 年度 銅山川流域（大蔵村）
平成 23 年度 鮭川流域（真室川町、金山町）
平成 24 年度 寒河江川流域（西川町）
　　ロールプレイング形式

平成 25 年度 赤川流域（鶴岡市）
平成 26 年度 立谷沢川流域（庄内町）
平成 27 年度 角川流域（戸沢村）、
平成 29 年度 銅山川流域（大蔵村）
平成 30 年度 鮭川流域（真室川町、金山町、鮭川村）
令和元年度　寒河江川流域（西川町）
　　学習型

Ｑ２．天然ダムは近年どこで起こっているのか。

Ａ２．平成 16 年新潟中越沖地震の際に新潟県。平成 20 年岩手・宮城内陸地震の際、岩手県及び宮城県。平成 23 年台風 12 号の際に奈良県及び和歌山県。平成 24 年山形県大蔵村に天然ダムが形成された。

Ｑ３．これまでに赤川流域で起こった土砂災害は。

Ａ３．大きな土砂災害は起こっていない。

~~昭和 50 年 8 月 6 日の豪雨により真室川災害が発生。~~
~~洪水・土石流発生し、多量の流木の衝突で橋梁が流出し、河積を侵して洪水氾濫を助長し被害が拡大した。~~

Ｑ４．これまでの新庄管内での土砂災害は何があるか。

Ａ４．平成 24 年に銅山川（大蔵村）の肘折で地すべりが発生。天然ダムが形成された。また平成 23 年には立谷沢川上流の濁沢池ノ台地区で深層崩壊が発生している状況にある。

Ｑ５．学習型方式以外に訓練方式は何があるか。

Ａ５．ロールプレイング方式、シナリオシミュレーション方式、DIG 方式、勉強会方式の４つがある。

参考

形　式	内　容
ロールプレイング訓練	想定した災害シナリオや理想的な災害対応シナリオをプレイヤーに知らせずに、コントローラーから付与された状況に対して、プレイヤーが自ら考え、自ら臨機応変に行動する訓練。
シナリオシミュレーション形式（シナリオ演習型）訓練	想定した災害シナリオや理想的な災害対応シナリオをプレイヤーに予め周知し、シナリオに従った行動（理想的な行動）をとることにより、災害時の基本的な流れを学ぶ訓練。
学習型（質問回答形式）訓練	ロールプレイング訓練の手法を用いながら、参加者全員が災害対応の流れを学習する。参加者が一同に集まり、進行役の状況付与（質問）に基づいて、参加者が「何をすべきか」を考え、次々にその場で回答する質疑応答型の訓練。
DIG 訓練	Disaster（災害）Imagination（想像力）Game（ゲーム）の略で、与えられた課題に対して、地図上に情報を書き込みながら、ワークショップ形式で対処方法や問題点等を討論し、模擬訓練を行う。
勉強会	個別のテーマに的を絞り、地図やマニュアル等をもとに机上で基礎技術等を習得する。